青少年の人づくりは親ぐるみ運動で

少年の犯罪は年ごとにふえる一方で、きよねん一年間に全国で二十三万人戦後の最高をしめしたといわれている。
これらの少年犯罪をなくするため、事前に防止しようと、夜る、昼るとなく自分の仕事のあい間、あい間に努力している市の青少年補導センターの補導員の人たちの声を集録してみた。

座談会　補導員はかく語る

▼総体的にいって少年の非行は年々増加しており、最近、これらの非行少年の年令が次第に低くなり、悪質化され、しかも、集団化の傾向にある。
▼市内でも低年令の中、小学生の犯罪が多くなり、数からみると、補導センターの補導した問題児は二百六十一人（ンコ遊びなどもある。うち男二人、女二人は少年院に収容したが、中学生一人をのぞいていずれも十六七才の中卒生であった。
▼センターとは別に南園署で取調べた非行少年は昨年二百九十二人あった。
また、本年一月から四月までに百一人を数えそのうち三十四人は、書類送検や、少年審判にかかっている。
▼これを犯罪別にみると、強かん（同未遂）五件、窃盗十件、傷害五件で、あとは、その他の特別犯（交通違反など）となっており、三人は養護施設に、一人は少年院に収容されている。

非行の主なものは

▼一番多いのはタバコで、高校生、無職の青少年が多く、中学生にもかなり多いまた、服装のみだれたものや、映画、無断外出、パチンコ遊び、交通違反、特別法違反（空気銃の不法所持）などがあり、交通違反では管内で二、三百件もある。
▼集団化されたことはタバコを喫うことにも見張りが立ち、スーパーなどでの万引きも三人以上の集団でやる場合が多い。
▼高校生のなかでは、服装を替え、高知から後免、伊野などへ遠征し、パチンコに興じているものもある。

人語る

南国署　西岡寛馬
鷺ケ池中　川端三雄
香長中　藤中正雄

生活環境でよくなる子供たち

ところで学校での生活状態はどうか

▼少年の非行は次第にのぼり坂であるが、学校内での生活状態はその逆で、非常に落ち着きを取りもどしている。
▼戦後みられた口答え、授業妨害などが姿を消したことは全体的な傾向で、世の中が落ち着いてきたことも一因であるが、校舎や、校庭の整備など学校の環境をよくすることで、子供たちにあたえる影響は大きい。
▼それに学校の緑化運動、花づくり運動も一役かっており、問題の多いとされている子供たちがかえって熱心になるなど、目あたらしいことや、環境の整備は心理的に子供たちを良い方向にむけているといえる。

非行はどうして起るか

▼非行化の原因にはいろいろあるが、家庭の問題が一番多く、放任、片親、両親の不和とか異状性格、道徳心の欠如、親と子の不和など……
▼それに両親のある、おじいちゃん、おばあさん子にも問題があるし、友達の良し悪しにもよる。
▼一般に貧困家庭に多いとみているが、事実はそうでなく、貧困ということはそれだけの理由だが、中流以上の子供に多いのは見逃せない。
▼ヤカマシイといって友達を連れてくることを嫌う家庭があるが、友達の関係や、その友達の良し悪しを知るためにも、家で遊ばせよい友達をつくってやることを考えてやるべきだネ。
▼うちの子に限ざって、という安易な考え方を捨て、日頃から充分子供に気を配ばるとともに、よい話し相手になってやるべきだと思う……。
▼また、自分の子でなく、他人の子供だから注意をしないで、なく、自分の子、他人の子のけじめなく一緒の人々が、親ぐるみ、社会ぐるみとなって青少年をみちびいてゆくことが、少年たちの非行化を防ぐ一番よい方法でなかろうか、是非そのようにしてもらいたいものだ。
▼中学生だから、と安心してはならない、知能の割に体の発育は盛んでなにかと刺戟されやすく、性にめざめる年ごろと、しかもこれから夏にむかって、性犯罪の多い季節となるから、女子供は特くに注意すべきである。
▼また、これらのことか一人でなく、グループ化されたことで、とくに、見知らぬ男に声をかけられたり、

放任は禁もつ
非行は親のゆるみから

一般や家庭の人たちにのぞむもの

▼親が子供に関心を持ち、決して放任しないことで、両親のある子は親がしっかりしつけをすることをのぞみたい。
▼ヤカマシイといって友達を連れてくることを嫌う家庭があるが、友達の関係や、その友達の良し悪しを知るためにも、家で遊ばせよい友達をつくってやることを考えてやるべきだネ。
▼うちの子に限ざって、という安易な考え方を捨て、日頃から充分子供に気を配ばるとともに、よい話し相手になってやるべきだと思う……。
▼また、自分の子でなく、他人の子供だから注意をしないで、なく、自分の子、他人の子のけじめなく一緒の人々が、親ぐるみ、社会ぐるみとなって青少年をみちびいてゆくことが、少年たちの非行化を防ぐ一番よい方法でなかろうか、是非そのようにしてもらいたいものだ。
▼中学生だから、と安心してはならない、知能の割に体の発育は盛んでなにかと刺戟されやすく、性にめざめる年ごろと、しかもこれから夏にむかって、性犯罪の多い季節となるから、女子供は特くに注意すべきである。
▼また、これらのことか一人でなく、グループ化されたことで、とくに、見知らぬ男に声をかけられたり、同級生である異性にも気を付けるよう日頃から指導すべきである。

利用してほしい補導センター

補導センターというものは

▼ようするにセンターは、非行の発生を未然に防ぐためのもので、軽度のうちに悪の芽を摘みとることを主目的とし、子供たちのことについての相談所ともいえる。
▼しかし、現在まで相談のあったのは開設以来わずか二件で、どうみてもセンター後免中町公民館そのものがよく知られてないことに原因があり、こんごこれが啓蒙につとめることにしている。
▼センターの補導員は、署三人、学校六人、市役所四人からなっており、昼間、二時間、夜間二～三時間巡回補導をしており、月、十四、五回受持ち、また月二回全員補導を行なっている。
▼いままで外面的のみであったが、これから内面的な面にも心をくばり、事前に家庭などを調査し、子供の身上をつかまえることが大切ではないか。
▼現在の補導員は、それぞれ専門の仕事を別にさげており、充分な活動ができないので専任の補導員を置くべきである。
また、本年度は地区に補助員などを設けて浸透をはかりたい。
▼小さな心配ごとでも、子供に関することであれば、かくさずすぐセンター（相談にきてほしいものだ。）

鷺ガ池
拡がる学習運動
I君らの努力実る

それでは終りになにか

▼悪い子供たちの話しでなく、子供が子供を指導している活きた話しをしてみたい。
それは、鷺ケ池中二年のあるグループの話しで、二年生のなかぼごろから、I君を指導者とする四、五人が中心となり、放課後、勉強をしようというグループができた。
▼この動きは、選抜試験が実施されるということで、学力のおくれているものをお互の力で引き上げ、お互が向上してゆこうということで始められたもので、普通は他をおしのけてまで、自分のことを考えるものだが、ここでは自分を犠牲にして行っているもので、現在ますますそのグループ活動は盛んとなり、三年の全クラスに波及している。
▼それは本当によい話だ市内全中学校にもすすめたいことだネ。
▼それもこの学習グループ自身から起こされ、組の先生が全然知らなかったもので、しかも問題児とみられていた子供が、指導者のI君のいいつけをよく守り学習にはげんでいるのに感心もし、驚きもしている。
そのような感心な子供たちのあることに期待をし、終りとしたい。

37年度の学力調査
県平均より上まわる

三十七年度における、全国小、中学校の児童生徒に対する学力調査が平おんのうちに行なわれたのはよろこばしいことである。
学力調査の成績をもって、児童生徒の能力の全部をおしはかることはできないが学習指導や、教育条件の整備改善の資料として役立つ点が多いと思われる。
調査は、小学校では五、六年生に対し、国語、および算数の二科目が行なわれ、中学校では国語、社会、数学、理科、英語の五科目が行なわれた。
その結果を見ると、高知県の成績は全国的に見て下位にあり、かんばしいものではなかった。
ところで南国市の場合を、教育長の議会答べんによりみてみると、その成績は、高知県の平均とくらべて、小学校では五、六年生とも南国市が、二点～七点まさり、中学校でも、二点から五点ぐらいすぐれている。
とくに、小学校の成績が良好なのは、学校教育が地につき、次第に学力が向上しつつあるしょうこであると思われる。しかし、全国的水準にはまだ達していない由で、関係者たちの一段のご努力を望みたい。
また、本年の学力テストを目前にひかえ、教員もともに協力しあい、昨年同様実施できるようのぞみたい。

水田の保温

水稲の活着、成育をよくするには、地温を高く保つような水のかけ方が大切、昼間は日が照っていれば、浅水にして、水温と地温の上昇をはかり、寒い日や風の日の夜間には、反対に深水にして、地温を保つようにする。
ふつうの日は、夕方になると水温よりも気温の方が早く低下し、朝は気温の方が水温より早く高くなるので、日の出とともに水を減らして、午後から少しづつ深水にして、夜間の保温につとめるようにする。
また水田の中の水は、できるだけ流動しないようにすることも保温上に必要である。

随想リレー

門田総務課長の指名を受けた第二陣の登場。これまた若手課長のホープ
将来の大成をのぞむやせつ

奴れい船

くり北上する。甲板に出ると耳も切れるように冷たい風が吹き荒れている。船槽は上下二段に仕切られているが、何処も足の踏み場もない程満員である。二尺四方しかない出入口のほかは明り取りの窓もない船底の片隅に、原木の残りが積み重ねられている。やっとの暖くなると北の海から氷山が、流れてくるということを聞いてはいるが見たことはない。終戦の年も暮れる十二月中ごろ、北鮮の興南港を出た貨物船は三千人余りの日本人を積んで、雪に包まれた北朝鮮の山々を左に見ながら、日本海をゆっことで丸太のうえに腰取ることができたが、足を伸ばすことまできない。暗闇の中にうごめく人々の不安と寒さと、空腹のどよめきは全くこの世のものとは思はれない。いつか映画で見た奴れい船と同じである。
一日一回与えられる食事もときおり欠げるので次第に頭がぼやけてくる、十日余りたってウラジオに入港。ここで衛生材料などを積み込むうちに昭和二十一年の正月を迎えたが、間もなくこの港を出てまた北えゆく三、四日経った頃からゴツンゴツンと鋼鉄板の船体に氷が当るようになった。船はいっそう速度をゆるめて氷を押しわけて進む、ウラジオを出て二週間もかかってやっと停船した。三時間ぐらいして下船してみるともう船の周囲は一面に氷りついている。陸地は全く見当らない。海の氷の上に三千人が一度に降りたのでバリバリと氷がわられたらおしまいだと思うとゾットする。足もとに気を配りながらゾロゾロと歩く、何処に行くのかわからない、声を出す者もない葬式の行列のようだ、あたりはだんだん暗くなる。腹はへる、寒いただ黙々と歩く、十時間位い歩き続けてようやく生れて始めてのシベリヤ大陸に上陸した。真夜中のシベリヤ、遠くで犬の声がする。吾々は一体ここで何をするのだろう、だがもう誰も明日の事なぞ考える余裕はない。飢と寒さで立っているのが精いっぱいである。この日からわずか三日の間に三千人余の仲間が毎日三人五人とたおれてゆく、皆な栄養失調だ。毛孔に血がにじみ出て肉は落ち骨と皮となっている、今日はまだ生きていた。明朝の食糧にとひとかけらのパンを握りしめて寝る、朝が来ると永久に眠りについている。昨日まで共に働らき、煙草も分けあった若い仲間がこうしてつぎつぎと昇天してその数も三百に達した、予科練出身のまだ満二十才にたりない若者には飢えと寒さに耐える事ができないのだろう、死ぬ者はすべてこうした若者かまたは乙種、丙種という骨肉の虚弱な者ばかりである。飢えと寒さと労働に耐えられないのは当然である。軍医さんはいても薬りがない、食糧がないどうする事もできないのだ。働きに出なければたださえ少ない食糧の配分が減らされる、死ぬ事さえも忘れて生きている。しかし幸い命を拾いとどめて帰宅できたというよりも生きている事ができた喜びは何と現してよいかわからない、この苦しかった生活を思い出すにつけ、終戦後十数年の世相の変転はともかくとして、生きている喜び健康である喜びをいま一度ゆっくりかみしめてみたいと思う。
次回はつつしんで吉本建設課長さんにお願います。

筆者のよこがお

中沢　健氏（42）
（市保険衛生課長）

大正10年3月里改田の産、県立工業青年学校卒、17年入隊（ハルピン教育隊）22年シベリヤから帰国、23年三和村書記、34年初代市職組長、35年総務課長補佐、国保係長を経て現職となる。
なにによらず、左手一本であやつり、とくに車の操作は他人の追随を許さぬ巧さ。
ときおりシベリアにのこしてきた、肉体の一部をしのんでいるとかや……
家庭には、美智子（34）さんと、ただ一人の皇太子孝夫（11）君の二人がある。

科学　HIJKLMNop

殺人光線レーザー

レーザーとは簡単に言うとすばらしく強い光線の束である。普通の光線をサーチライトで月に送ると、先端が月に届いたときは直径四万キロメートルの円になるが、レーザーだと僅か直径三キロメートルの小さな円となるだけである。レーザー光線は太陽の表面より数十万倍も高い温度を作ることができる。高知から東京タワーに強力なレーザー光線を当てると蒸発してなくなることもできる。もっと遠くから十万キロだから容易に落すことができる。レーザー銃やレーザー砲で攻撃を受けた部隊は全然音を聴かず、ただ一瞬強烈な光を見たと感じた次には人も武器も蒸発してなくなっているだろう。レーザー光線はアインシュタインの計算にもとづき何年も研究された後開発されたものである。日本でもキャノンカメラがレーザー光線の発振に成功している。
（鉄空（ロケット））

広報南国　第43号　昭和38年5月15日　発行　南国市役所　総務課